

# 事業報告

2017

訪問看護認定看護師による  
自主的活動の強化  
事業報告書

---

## はじめに

日本は少子高齢化社会を迎え、保健、医療、福祉の連携がより重要となり、「施設から在宅へ」の大きな流れの中、日常生活の圏域単位で地域を支える「地域包括ケアシステムの充実」を目指しています。訪問看護認定看護師は、国民が安心して望む場所で療養できるよう、自ら高度実践の質保証や活動の場の拡大に取り組み、看護の質の向上を図ること、多職種との連携やネットワークの構築を行う中で地域包括ケアシステムの推進にむけて日々活動しています。

今年度も日本財団様からご支援を頂いたことで、より一層、研修会や情報交換会を充実し、全国の訪問看護認定看護師が地域において積極的に活動することができました。特に研修会では「医療的ケアの必要な小児への訪問看護」を取り上げ、日本看護協会の取り組みと、訪問看護認定看護師からの活動報告を受け、情報交換をすることができました。この研修は反響が大きく、地域に戻って小児看護の実践に役立ったとの効果がありました。2月には、平成30年の同時改定に向けて先取り研修会を開催し、いち早く全国の訪問看護師への情報伝達できたことは、ネットワーク充実に繋がり、会員にとってもより魅力的な協議会に発展することができました。また、訪問看護認定看護師合格者や今まで協議会の活動に参加していなかった認定看護師へ冊子を用いてのPR活動や入会呼びかけを行った結果、会員数も正会員、賛助会員合わせて、354名（2018年3月現在）と前年度より約20名増加し、病院・施設からや他職種における在宅医療や福祉に関する学会や研究会への講師依頼や連携の機会も増加しており、認知度も高くなっていることを実感しています。

ブロック活動では、昨年度に比べて研修会や情報交換会が活発に行われ、参加人数も増加しました。各地域により課題も異なるためブロックでの活動だけではなく、より小さな単位での活動が広く地域や多職種を巻き込んだ連絡会などに発展したとの報告もあります。各地域に合わせた活動に対して、協議会は引き続き支援していきます。

また、今年度は新たに、厚生労働省への政策提言と日本看護協会への要望書に取り組みました。厚生労働省へは「訪問看護認定看護師の役割と評価について」の要望書を提出し、担当者から訪問看護認定看護師としての活動についての意見交換を行うことができました。日本看護協会には、訪問看護認定看護師教育の在り方について、全国の訪問看護認定看護師に向けてのアンケート結果を参考にして、要望書としてまとめることができました。研究支援については、昨年作成した、「研究助成におけるガイドライン」に沿って「訪問看護認定看護師の質について」の研究を今年度も1件採択しました。

今後も、認定看護師の役割である、「実践」「指導」「相談」の経験、知識を持ちより相互の交流をはかることによって、多職種からも認知され、信頼される団体としてより一層努力していきたいと思えます。

ここに2017年度の事業の報告書を取りまとめさせていただきましたが、当協議会の活動を、会員をはじめ多くの関係者の方々にご理解いただき、さらなるご支援、ご協力、そして忌憚のないご意見をいただけると幸いです。

末筆になりますが、当協議会がこのような活動が出来るのは日本財団様のご支援あつてのことと存じます。この場を借りて、深く感謝申し上げます。

2018年3月吉日

一般社団法人 日本訪問看護認定看護師協議会

代表理事 野崎加世子

# 目 次

はじめに

## 第1章 事業の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

- 1 事業の目的
- 2 事業の目標
- 3 事業のスケジュール

## 第2章 事業の活動報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・5

- 1 ブロック活動
  - (1) 北海道ブロック
  - (2) 東北ブロック
  - (3) 北関東ブロック
  - (4) 関東ブロック
  - (5) 南関東ブロック
  - (6) 東海北陸ブロック
  - (7) 近畿ブロック
  - (8) 中四国ブロック
  - (9) 九州ブロック
- 2 研究活動支援
  - 2017年度研究活動報告 ー関東ブロックー
- 3 その他の活動
  - (1) 平成30年度診療報酬（訪問看護療養費）の改定について（要望）
  - (2) 訪問看護認定看護師の教育機関設立要望書の件（仮）
  - (3) 診療報酬・介護報酬 同時改定先取り研修会

## 第3章 事業の評価・・・・・・・・・・・・・・・・・・85

- 1 ブロック活動
- 2 研究活動支援

## 別添資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・89

- 1 会員数及び9ブロック図
- 2 理事会・事務局名簿
- 3 理事会組織図
- 4 理事会及び総会等の開催

訪問看護認定看護師数（日本看護協会 認定部資料）

# 第1章 事業の概要

- 1 事業の目的
- 2 事業の目標
- 3 事業のスケジュール

## 1 事業の目的

日本の高齢化は上昇の一途をたどり、国は団塊の世代が75歳となる2025年を目途に、地域包括ケアシステムの構築を進めている。これには、従来の病院完結型の医療から地域完結型の保健・医療・介護・福祉への転換が必須であり、その中心的役割を担う訪問看護の発展に期待が寄せられている。

当協議会は、全国の訪問看護認定看護師が在宅医療・看護・ケアの質の向上と専門性を高め、国民が安心して在宅療養できるよう支援することを目的に設立され、2014年10月1日に一般社団法人化した。

訪問看護認定看護師の組織として変革する社会において先駆的活動に取り組み、訪問看護の質の向上と実践力の強化を図ること、ならびに研究活動を通して訪問看護のエビデンスを示し訪問看護の発展に繋がる活動を行うことを目的としている。

## 2 事業の目標

- (1) 訪問看護認定看護師として、質の高い実践力の強化や相談・指導能力の向上を図るための専門性の高い研修を全国9ブロックで実施する。(各ブロックで年間2回の実施)
- (2) 会員同士の情報共有を行う機会を持つことで、地域の課題や社会に必要とされている先駆的な取り組みを知り、各地域において新たな看護活動の展開を行う。
- (3) 訪問看護認定看護師の活動や先駆的取り組みを調査分析することにより、変革する社会に必要とされる看護活動発展への政策提言を行う。ならびに平成30年の介護報酬・診療報酬同時改定に向けて訪問看護認定看護師の役割を言語化し、診療報酬の加算等へ繋がる政策提言を行う。
- (4) 訪問看護の質の向上に資する研究活動を年間1件以上支援し、訪問看護認定看護師が研究活動に取り組みやすい環境を整備する。
- (5) 全国の訪問看護認定看護師が組織力を強化し、自立した活動ができる財源を確保するためにも会員数の増加に努め、認定審査合格者の9割の入会を目標とする。また、各関係団体との共同企画・共同開発を通じて賛助会員の確保を促進する。

以上の事業によって、訪問看護認定看護師の社会的意義を高め、地域包括ケアシステムの構築に貢献できる人材を育成する。具体的には、地域における多職種へのコンサルテーション、看護師の施設間の垣根を越えた看護連携マネジメント、エンドオブライフケアの推進などである。結果、地域住民がその人らしく最期まで暮らせる社会の構築に寄与する。

### 3 事業スケジュール

本事業は、以下のスケジュールで行った

| 年    | 月  | 日                      | 内容               | ブロック名             | 場所                      |
|------|----|------------------------|------------------|-------------------|-------------------------|
| 2017 | 4  | 8                      | ブロック会議           | 関東                | 目黒区田道住区三田分室             |
|      | 5  | 12                     | 第1回 理事会          | —                 | 日本訪問看護財団 会議室            |
|      |    |                        | 第1回 理事・ブロック長合同会議 | —                 | 〃                       |
|      |    | ブロック会議                 | 南関東              | 〃                 |                         |
|      |    | 13                     | ブロック会議           | 関東                | 目黒区田道住区三田分室             |
|      |    | 27                     | ブロック会議           | 北関東               | 御茶ノ水 ビックエコー             |
|      | 6  | 3                      | 第4期定時総会          | —                 | ホテルマイステイズ新大阪コンファレンスセンター |
|      |    |                        | (ブロック会議)         | (中四国)             |                         |
|      | 9  | 23                     | 研修会              | 東海北陸              | 名古屋市立大学看護学部棟 501 教室     |
|      |    | 24                     | 第2回 理事会          | —                 | 日本訪問看護財団 会議室            |
|      |    |                        | 第2回 理事・ブロック長合同会議 | —                 | 〃                       |
|      |    | 30                     | ブロック会議           | 近畿                | 神戸勤労会館 304 号室           |
|      | 10 | 7                      | ブロック会議           | 北海道               | 訪問看護ステーションやおき           |
|      |    | 8                      | ブロック会議           | 中四国               | 広島赤十字原爆病院               |
|      |    | 14                     | ブロック会議           | 北関東               | 御茶ノ水 ビックエコー             |
|      |    | 15                     | 研修・交流会           | 南関東               | 医療介護複合施設 ONE FOR ALL 横浜 |
|      |    | 21                     | 研修・交流会           | 九州                | 福岡県教育会館 第3会議室           |
|      | 11 | 11                     | 交流会 2017         | —                 | ベルサール新宿グランドコンファレンスセンター  |
|      |    | 19                     | 研修会              | 関東                | 日本財団ビル 会議室              |
|      | 12 | 9                      | 研修会              | 中四国               | 日本赤十字社中四国ブロック血液センター     |
| 24   |    | 要望書・W改定先取り研修会 企画ミーティング | —                | 日本訪問看護財団 会議室      |                         |
| 2018 | 1  | 20                     | ブロック会議/研修会       | 東北                | 訪問看護総合センター              |
|      |    | ブロック会議                 | 近畿               | 兵庫勤労センター          |                         |
|      |    | 27                     | ブロック会議           | 北海道               | かでの2・7                  |
|      |    |                        | ブロック会議           | 南関東               | 鶴見区医師会在宅部門会議室           |
|      |    | 28                     | 臨時理事会            | —                 | 日本訪問看護財団 会議室            |
|      | 2  | 3                      | 研修会              | 東海北陸              | 名古屋市熱田区住宅サービスセンター 研修室   |
|      |    | 18                     | 第3回 理事会          | —                 | 日本訪問看護財団 会議室            |
|      |    |                        | 第3回 理事・ブロック長合同会議 | —                 | 〃                       |
|      | 25 | 診療報酬・介護報酬同時改定研修会       | —                | フクラシア丸の内オアゾ J 会議室 |                         |
|      | 3  | 10                     | 研修会 (予定)         | 関東                | 貸会議室のクラッシー新宿御苑店         |



## 第2章 事業の活動報告

### 1 ブロック活動

- (1) 北海道ブロック
- (2) 東北ブロック
- (3) 北関東ブロック
- (4) 関東ブロック
- (5) 南関東ブロック
- (6) 東海北陸ブロック
- (7) 近畿ブロック
- (8) 中四国ブロック
- (9) 九州ブロック

### 2 研究活動支援

2017年度研究活動報告 - 関東ブロック -

### 3 その他の活動

- (1) 平成30年度診療報酬（訪問看護療養費）の改定について（要望）
- (2) 訪問看護認定看護師の教育機関設立要望書の件（仮）
- (3) 診療報酬・介護報酬 同時改定先取り研修会



## 1 ブロック活動

### (1) 北海道ブロック

正会員数 8名 (ブロック長:池田ひろみ氏)



#### ○第1回ブロック会議

1. 名称：北海道ブロック会議・交流会
2. 実施日時：2017年10月7日(土) 15時～17時
3. 会場：訪問看護ステーションやおき
4. 参加人数：計3人
5. 活動内容の報告

##### (1) 活動の目的

- ①北海道訪問看護認定看護師の情報交換
- ②平成30年度北海道ブロックの活動内容の協議

##### (2) 具体的な内容

- ①各地域での地域包括ケアシステム実現にむけた取り組みについて情報交換を行う事で、自分の地域での活動に生かすことができる
- ②平成平成30年度の北海道ブロックの取り組みについて意見交換を行い、具体的な活動計画を作る

##### (3) 活動の効果

- ①今回は3名のみ参加となったが、人口や高齢化率、地域で抱える課題などの異なる地域での地域包括ケアシステムの実現にむけた取り組みを知ることができた。訪問看護認定看護師として、地域の中で何ができるのかという協議には至らなかったが、多くのヒントを得ることはできた。
- ②平成30年度の北海道ブロックの活動について、下記の意見がだされた。
  - 参加人数が少なくても1回/年は会議を開くこと
  - 会議を開催する場所は訪問看護認定看護師がいる地域とし毎年持ち回りで行うこと
  - 施設との連携に関しての活動報告や勉強会などの開催も検討

#### ○第2回ブロック会議兼交流会

1. 名称：北海道ブロック会議・交流会
2. 実施日時：2018年1月27日(土) 13時～15時
3. 会場：かでの2・7
4. 参加人数：計2人
5. 活動内容の報告

(1) 活動の目的

- ①北海道訪問看護認定看護師の情報交換
- ②平成 30 年度北海道ブロックの活動内容の協議

(2) 具体的な内容

平成 30 年度の北海道ブロックの取り組みについて、昨年度に開催した交流会での意見や、メールで頂いた意見をもとに、具体的な活動計画を作る

(3) 活動の効果

平成 30 年度 北海道ブロックの活動内容について検討を行うことができた

- 継続協議事項であった、訪問看護認定看護師によるメール相談は中止（今後も継続協議）
- 平成 30 年度 第 1 回会議は 9 月 8 日（土） 函館市で開催
- ブロック活動として、「24 時間体制」をテーマに勉強会を行う。その際には、現役の訪問看護師からも広く意見をもらいながら、実施していく。

## 北海道ブロック会議・交流会 議事録

平成 29 年 10 月 7 日（土） 15:00～17:00

参加者：池田ひろみ、高畑智子、田川章江（敬称略 あいうえお順）

### 議題

#### 1) 各地域での地域包括ケアシステム実現にむけた取り組みについての報告

##### ① 池田ひろみより（札幌市）

訪問看護ステーションがあり、自分も居住している地域での取り組みについて紹介。

包括支援センターが中心になり、地域住民から困りごとや課題の抽出を行い、住民を巻き込んで活動している。特に高齢化率の高い場所に関しては、買い物難民も多く、買い物支援バスの運行を開始。

また、防災・福祉支え合い活動として、日常の見守りや災害時の安否確認など、要援護者への支援、ゴミだし支援、除雪サービスなど実際にその地域に住んでいる、地域住民がボランティアとして活動するなど、自助・共助の取り組みが行われている。

##### ② 高畑智子より（函館市）

行政が中心となり、各専門職種と地域住民が参加した委員会を設置し、様々な取り組みが行われている。報告者も、訪問看護師の立場として参加している。

平成 29 年 4 月には、医師会病院内に「函館市医療・介護連携支援センター」が設置され、市民の相談窓口として機能し始めている。また、同センターでは地域の中で研修会が多数開催され、重複することも多いとの声をうけ、ホームページで研修が一覧できるようなシステムも開始。研修会の企画も行っている。

市民に対しては、ホームページでだれでも閲覧できる、「はこだて入退院支援連携ガイド」という冊子を作成。

##### ③ 田川 章江より（釧路市）

看看連携からはじまったシステム「つながり手帳」（医療と介護の情報共有ツール）が、市内で使用され始めている。

調剤薬局と包括支援センターとの連携として、調剤薬局で気になった患者さんがいた場合、本人・家族の承諾を得て、地域包括支援センターに情報提供を行うというシステムが構築されていたり、SOS ネットワークや釧路高齢者安心ネットワークの事業など、自助・共助・公助をつなげるネットワークづくりが積極的に行われている。

人口や高齢化率、病院やサービス事業者の量、地域の特性などがあるため、各地域での取り組みや課題は異なるが、それぞれの地域でシステム作りが行われているということが理解できた。

今後、訪問看護認定看護師として、また地域で生活する一住民として、どう関わっていくのか、今回の報告も参考にしながら、模索していき、北海道ブロックの交流会等で報告していくことを確認した。

2) 第2回理事・ブロック長合同会議の報告を行う

3) 平成30年度北海道ブロックの活動について

北海道ブロックは7名で構成されているが、全員が参加した会議を開催するのが難しく、毎回2～3名の参加となっている状況を踏まえ、今後の活動について意見を求めた。

今までは、交通の利便性を考え、札幌での開催とすることが多かったが、今後は、各地域で持ち回りの開催としてもよいのではないかという意見があり、平成30年度は函館で開催することを決定。

年1回の交流会は継続するが、冬期間は交通網の乱れ等から、参加が難しくなることも多いため、冬期間の開催は避けた方がよいという意見があり、平成30年度は9月開催とする。

今後、施設との連携が更に多くなることが予測されるため、それに関する実践報告など行う事を平成30年度の活動の1つとして挙げてはどうかとの意見もあり、1月の会議での検討項目とする。

次年度の目標については、1月末に札幌で会議を開催することを予定しているが、参加できない会員も多いと予測されるため、メールで意見を求めるなどの意見があり、それを採用とした。

4) 近況報告・情報交換等

交流会で実施。

今年度は、更新申請を行った会員が多かったため、情報の伝達や共有も実施。

交流会では、訪問看護認定看護師が中心となり、訪問看護入門の研修を各地で開催できないだろうかなど、新たな企画についての意見もあり、有意義なものとなった。

## 北海道ブロック会議・交流会 議事録

平成 30 年 1 月 27 日（土） 13：30～15：30

参加者：池田ひろみ、土井正子（敬称略 あいうえお順）

今回、参加できなかった会員からは事前にメールで意見等確認

### 議題

#### 1) 平成 30 年度北海道ブロック活動について

##### ① 訪問看護認定看護師によるメール相談について

協議の結果、平成 30 年度の実施は各会員への負担も大きく、平成 30 年度の実施は困難と判断。今後、北海道ブロック会員の意見を確認しながら、活動の可能性を探る。

##### ② 会議の開催場所について

訪問看護認定看護師がいる地域とし、毎年持ち回りで行う

平成 30 年度 第 1 回の会議は、9 月 8 日（土） 函館市

##### ③ ブロック活動：テーマ「24 時間体制」について勉強会を実施

背景：今回の診療報酬の改定で、24 時間連絡体制加算を廃止し、24 時間対応体制加算に統一されるなど、24 時間の対応体制の整備について求められている状況があるが、現役の訪問看護師からは、24 時間の携帯当番の負担が大きい、不安である等の声も多く、各ステーションで人材確保、質の確保に苦慮している状況がある。

また、24 時間体制という事をテーマとした、勉強会や研修会もない。

### スケジュール

1. 現場から、広く意見をもらう機会の設定（アンケート等）
2. アンケート等から問題となっていること、解決可能な事などを抽出し、勉強会の資料を作成（原案）
3. 作成した資料について、現役の訪問看護師から意見をもらう場をつくる。
4. 3 で出た意見を参考にしながら、資料の改定を行う（1 回目改定）
5. 具体的な計画については、計画書（案）を作成し、2～3 月中に各会員に配布。各会員より、意見をもらい 3 月末には最終計画書作成。会員に配布し、実施。
6. 4 で改定した資料については、次年度も引き続き、現役の訪問看護師から意見をもらう場をつくり、より実践に即したものとしていくための改定を行っていく。

## (2) 東北ブロック

正会員数 11名 (ブロック長：及川真喜子氏)



### ○ブロック研修会

1. 名称：2017年度 第1回 東北ブロック研修会
2. 講師：宮城県 松田病院 佐藤智 医師
3. 実施日時：2018年1月20日(土) 13時～14時30分
4. 会場：公益社団法人 宮城県看護協会 訪問看護総合センター (宮城県仙台市)
5. 参加人数：計6人(青森県2人/岩手県1人/宮城県2人/福島県1人)
6. 活動内容の報告

#### (1) 活動の目的

研修を通し認定看護師としての資質向上につなげ会員各位の今後の活動に役立てる。

#### (2) 具体的な内容

研修会 「在宅看取りのこれまでとこれから」 講義とディスカッション

#### (3) 活動の効果

在宅看取りに長年携わってきた医師から「在宅看取りのこれまでとこれから」と題しお話頂いた。その上で訪問看護師として自分たちにできることは何かをテーマに青森、岩手、福島、宮城の各県の現状や看取りの状況についてディスカッションした。地域によって、またステーションの方針により看取りの考え方に違いがあることも共有できた。皆が時間を忘れ日頃取り組んでいる状況を語り合い疑問点の解消もできた。

#### (4) その他

会員の所在地が広域であり、冬期間の開催となったにも関わらず遠方から参加していただいた。しかし、参加者が毎回同じメンバーになっている。また、役員等の交代等も提案したが、皆が集まりやすい土地ということで宮城県が役員を務めて欲しいとの意見が出された。

### ○ブロック会議

1. 名称：2017年度 第1回 東北ブロック会議
2. 実施日時：2018年1月20日(土) 14時40分～16時40分
3. 会場：公益社団法人 宮城県看護協会 訪問看護総合センター (宮城県仙台市)
4. 参加人数：計6人(青森県2人/岩手県1人/宮城県2人/福島県1人)
5. 活動内容の報告

#### (1) 活動の目的

ブロック会員の活動状況を共有し、会員各位の今後の活動に役立てる。

(2) 具体的な内容

- ① 会員の活動状況等の情報交換会
- ② 次年度の活動計画

(3) 活動の効果

参加メンバーは前回同様となったが、1年ぶりの開催で所属部署が変更になっていたり、新規事業を検討していたりとそれぞれに進展が見られた。立場や地域によって違いはあるがそれぞれが地域で活動し、認定看護師として地域包括ケアシステムの構築に寄与していることが伺えた。

(4) その他

会員の所在地が広域であり、冬期間の開催となったにも関わらず遠方から参加していただいた。しかし、参加者が毎回同じメンバーになっている。また、役員等の交代等も提案したが、皆が集まりやすい土地ということで宮城県が役員を務めて欲しいとの意見が出された。

## 一般社団法人 日本訪問看護認定看護師協議会

### 平成 29 年度 第 1 回 東北ブロック会議議事録

開催日時：平成 30 年 1 月 20 日（土）13：00～16:40

開催場所：宮城県仙台市訪問看護総合センター3階研修室

参加者：船場、二本柳、平澤、中島、大友、及川

#### 1、開 会

#### 2、 挨拶 東北ブロック担当理事 大友 史江氏

- ・今年度皆さんと初めて顔合わせができて良かった。有意義な研修と情報交換会としましょう。
- ・訪問看護財団のアドバイザー事業が 30 年度東北ブロックが担当になる。是非皆さんにもご協力頂きたい。

#### 3、 第 1 部 研 修（講演会）

「在宅看取りのこれまでとこれから」

講師：宮城県 松田病院 佐藤 智医師

##### \*別紙資料参照

先生は、岩手県出身で医師としては外科医としてスタートされた。宮城県で緩和医療に取り組み始め平成 5 年より宮城県、青森県で緩和ケア病棟の設立に尽力された。昨年、宮城県に戻られ、地域の病院で在宅医療で活躍されている。しかし、地域は以前に比べ認知症の患者が増え、ほとんどの方の最期は誤嚥性肺炎で亡くなられる現状だという。また、終末期においても安楽、リラクゼーションの目的でリハビリ職の関わりが重要と考えられていた。訪問看護師の役割は、関る本人、家族、福祉職、医師等のつなぎ手として気づきを行動に起こし患者、利用者の尊厳を保つことに寄与して欲しいとお話を頂いた。

##### （意見交換）

青森：独居の方の看取りで在宅看取りの方向性を確認していた。しかしヘルパーの訪問時に呼吸停止があり訪問看護ステーションに連絡したにも関わらず、訪問看護師の指示で救急車を要請してしまい検死になったケースがあった。在宅看取りを支えるヘルパーの教育の必要性を感じた。また、地域での終活の研修会の必要性も感じている。また、病院からケアマネジャーに「退院させたいのでどうにかして欲しい」という依頼があり困っているとの現状報告もあった。

（福島）：病院としての説明が不足していることを感じており、やはり自分たちがつなぎ手として



動かなければならない。

先生より、独居の在宅療養者も火の始末ができなくなったら在宅の限界と判断しているとの話があった。

また、我々訪問看護師は、様々な情報の提供をしつつ最終的な決定は利用者がするという立ち位置で見守るのが大事という方向で意見が一致した。(ジレンマを感じつつも意思決定はあくまで利用者・家族であることを忘れず待つことが大切である。)

#### 4、 第二部 情報交換

##### ①今年度の活動状況等

(青森)

二本柳氏

- ・病院組織の一員として、薬剤師や葬儀屋との連携も強化している

船場氏

- ・一昨年現在のステーションを立ち上げたが看護師4人で多忙で疲弊している。母体に病院も看護学校もあるが看護師の補充や採用ができていない

(岩手) 平澤

- ・自身のステーションは給料も高く設定し、様々な集まりにも顔を出し訪問看護の楽しさをアピールし看護師採用につなげている。
- ・あらたな事業展開予定(有料施設)

(福島) 大友

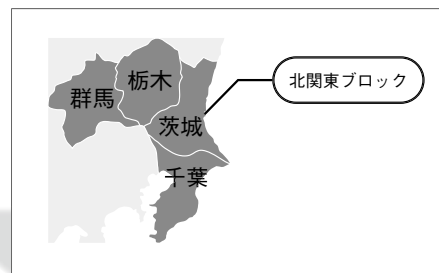
- ・在宅事業部と部署が変わりステーションのみならず全体を見ていかなければならない立場となった。

##### ②次年度計画

- ・会員が積極的に30年度アドバイザー事業へ協働して欲しいと大友理事からお話があった。それを受け、コンサルテーションを学びなおせる研修会の企画を検討することになった。
- ・また、ブロック長の輪番制等提案したが広域の会員が集まりやすい県が宮城県の仙台市であるとの意見から宮城県で継続の要望が出された。

### (3) 北関東ブロック

正会員数 25名 (ブロック長：佐藤富子氏)



#### ○ブロック会議

1. 名称：第1回ブロック会議
2. 実施日時：2017年5月27日(土) 14時～16時
3. 会場：御茶ノ水カラオケビックエコー
4. 参加人数：計 7人 (栃木県1名/千葉県6名)
5. 活動内容の報告

##### (1) 活動の目的

- ① 全県の会員参加のブロック会開催を目指す。
- ② 千葉県看護協会との訪問看護基礎研修会の振り返りと、方針の確認を行い内容の充実を目指す。
- ③ 各会員の認定活動の交流から、各自の活動やブロック活動の示唆を得る。

##### (2) 具体的な内容

- ① 千葉県訪問看護推進事業、千葉看護協会との基礎研修会協働 (今年度8回開催予定) について討議
- ② 杉原 CN より、研究の一部を発表、学習。「A 急性期病院の病棟看護師による退院支援の必要な患者をスクリーニングする仕組みの再構築」
- ③ 地域のケアマネに訪問看護に求めるものをアンケートで取り、取り組んでいるとの報告、活動交流等。

##### (3) 活動の効果

- ① 昨年度研修会8回、参加者100名、同国見学22名。今年度目標は3割の見学参加目標とする。
- ② 各病棟への肯定的なフィードバックとモチベーション維持のための方策。成功体験からリンクNsの自律的な方法選択の促しと教育。訪問看護の視点から出発していること、病棟との強い絆を意図的に構築してきたことに基づいていた。リンクNs、病棟Nsへの教育の視点がシステム化され、今後の成果も期待される。それぞれの地域で、退院支援部門と連携をより強化、病棟へフィードバックしていく事の重要性を再確認した。
- ③ 地域と繋がるために具体的な実践を共有できた。

##### (4) その他

- ・参加会員の偏りが、なかなか解消されない。理事により、近隣の会員へ声掛け等いただき、広がりつつはある。開催場所の検討もしているが、ブロック活動自体の魅力を作っていきたい。
- ・体制について、補佐として次につなげる意見が出て会としての広がりを感じることができた。

## ○ブロック会議

1. 名 称：第2回ブロック会議
2. 実施日時：2017年10月14日（土） 14時～16時
3. 会 場：御茶ノ水カラオケビックエコー
4. 参加人数：計5人（栃木県1名/千葉県4名）
5. 活動内容の報告

### (1) 活動の目的

- ①北関東ブロック全県の会員参加のブロック活動を目指す。
- ②千葉県訪問看護基礎研修会の中間の振り返りを行い、内容の充実を目指し訪問看護増につなげる。
- ③各会員の認定活動の交流から、各自の活動やブロック活動の示唆を得る。

### (2) 具体的な内容

- ①協議会からの報告。
- ②千葉県訪問看護推進事業、千葉県看護協会との基礎研修会（4回終了）について報告。
- ③各会員より、活動報告。
- ④次年度ブロック活動と体制について。

### (3) 活動の効果

- ①研修会8回、参加者65名、同行見学13名。研修計画・実施・評価表を作成し、より内容向上のための情報が共有できるようになった。
- ②地域と繋がるために、各員が行っている活動を具体的に共有でき、自地域で活用する示唆を得た。特に、栃木県での教育ステーション計画についての意見交換ができたことは良かった。
- ③次年度体制は、ブロック長：杉原 CN。理事：黒崎 CN 継続。  
千葉以外の会員も参加できるような呼びかけをしつつ、年2回kのブロック会を開催することを確認した。

### (4) その他

- ・参加会員の偏りが、なかなか解消されない。理事により、近隣の会員へ声掛け等いただき、広がりつつはある。開催場所の検討もしているが、ブロック活動自体の魅力を作っていきたい。

## 2017年度 第1回北関東ブロック会議事録

2017.5.27 14:00~16:00 カラオケビックエコーにて

参加者：黒崎雅子(理事：栃木、訪問看護ステーション星が丘)、杉原幸子(役員：君津中央病院医療連携室)、大桐四季子(役員：ふたわ訪問看護ステーション)、山橋直子(コープみらい四街道訪問看護ステーション)、並木令子(梅香苑訪問看護ステーション)、高橋恵子(てんだい訪問看護ステーション)、佐藤富子(まくはり訪問看護ステーション)

## 1. 認定協議会より報告

\*現在会員数 327 名

\*本年度事業計画・教育課程設立に関する要望書・政策提言へ向けた活動・予算 471 万円 (前年 451 万)

\*6/3 定期総会、第2回ブロック長合同会議 新大阪 ブロック内会員へ欠席の場合は委任状提出の依頼を伝達していくことを周知

\*今後の予定：11/11 (土) 交流会。2018/2 月第3回ブロック長合同会議。

\*協議会広報関連：ロゴ作成検討中。シンボルとして会への思いを込めるものであるから、各ブロックの意見集約中。意見として、サンプルがとてもかわいく温かさがあって素敵である、認定の協議会の旗の色を基調としたデザインにさせていただけると整合性も出てくるのではないかと意見あり。

## 2. 千葉県訪問看護推進事業、千葉看護協会との基礎研修会協働 (今年度8回開催予定) について討議

看護協会からの要望として、潜在看護師が訪問看護をやってみようという動機付けになるような内容で。例えば、一歩踏み込もうとする時の不安ややってみての感想等も伝えられるとよいのではないかと。ビデオ等の感想が良い。研修参加者の3割程度の同行見学を見込んでいる。

今年度は、研修内容の質をさらに向上させるため、学習計画を共有し、何を使用し、何をねらいとするのか等明確化し、質を均てん化する。複数名で担当し、報告書により全体で振り返る。就職に結びついた方の感想やその後はどうか聞き、次に繋げたい(看護協会に協力依頼)。

講師担当希望を募り、杉原 CN、山橋 CN、高橋恵子 CN から日程希望あり。その他は希望者と役員で調整する。

## 2. 杉原 CN より、研究の一部を発表。「A 急性期病院の病棟看護師による退院支援の必要な患者をスクリーニングする仕組みの再構築」ポイントは、「ツールと支援体制」

退院支援の必要性があるかのスクリーニングが、されていなかった件数の調査により、現場に必要性を気づかせることから開始。病棟Nsの記入しにくさは何かを調査しスクリーニングシートを改良。対象者は入院時から、毎週退院支援のスクリーニングを行う等対応のルールを変更。複数のNsがスクリーニングシートを利用するシステムになったことで、評価が独りよがりにならず各Nsの力量が向上。各病棟への肯定的なフィードバックとモチベーション維持のための方策(中間報告で成果報告等)、成功体験からリンクNsの自律的な方法選択の促しと教育。いずれも杉原CNが、訪問看護の視点から出発していること、病棟との強い絆を意図的に構築してきたことに基づいていた。リンクNs、病棟Nsへの教育の視点がシステム化され、今後の成果も期待されるとの感想あり。それぞれの地域で、退院支援部門とより連携を強化していく事の意味を再確認した。また、フィードバックの重要性から、困った事例は直接病棟に返していく。

## 3. 各々の活動報告、実践から

山橋 CN より、地域のケアマネに訪問看護に求めるものをアンケートで取り、取り組んでいるとの報告等。

## 4. 次回ブロック会 日程：10月14日(土) 場所：日本訪問看護財団会議室(予定)

内容：千葉県訪問看護基礎研修会中間報告。機能強化型、看護多機能等の実践について等

5. 次年度体制：ブロック長と補佐をペアとし、担当をつなげていくと役割や協議会の内容が理解できる。  
いろいろな会員が経験した方が活動が広がるとの意見あり。

2017.5.29 文責 佐藤富子

## 2017年度 第2回北関東ブロック会議事録

2017.10.14 14:00~16:00 カラオケビックエコーにて

参加者：黒崎雅子(理事：栃木、訪問看護ステーション星が丘)、杉原幸子(役員：君津中央病院医療連携室)、大桐四季子(役員：ふたわ訪問看護ステーション)、佐々木ゆかり(船橋二和病院地域連携センター)、佐藤富子(まくはり訪問看護ステーション)

## 1. 認定協議会より報告(第2回理事・ブロック長合同会議)

\*現在会員数304名。未収金報告。

\*6/3定期総会報告。

\*関東ブロック高橋氏より、質評価の研究中間報告あり。

\*今後の予定：11/11(土)ブロック交流会。2018/2月第3回ブロック長合同会議。

## 2. 千葉県訪問看護推進事業、千葉看護協会との基礎研修会(今年度8回開催予定)の中間報告と振り返り。

現在まで、4回研修会終了(6/24千葉県看護協会半日.7/41日.9/2。参加者合計65名。見学体験参加者13名。就職者2名(訪問看護1、看多機1)

杉原CNにより、研修計画・実施・評価表が作成され、配信・共有できた。

## 3. 各々の活動報告、実践から

杉原：県モデル事業への取組みを継続している。地域連携における4市地域のルール作り等。連携シートの活用が円滑。自病院は、近隣唯一の急性期病院のため緊急対応(遠方へ緊急ヘリ対応等)の役割あり、その後の退院支援等の苦労がある。

佐々木：地域連携センター設立2年目奮闘中。在支、包括、クリニック・病院等の医療機関、との医療懇談会予定。船橋市ひまわりネットワークでの活動報告。24任意団体が加盟し多職種連携が構築。

大桐：船橋市ひまわりネットワークでは、Nsや多職種に向けて基礎研修・現任教育・介護福祉士育成事業・医師会包括との交流等・各種事業を行っている。市からST協議会に補助があり、年会費も安く加盟しやすい。

黒崎：栃木県ST協議会、加入ブロックの教育ステーションの準備中。準備期間限られ、通常業務との両立課題。協議会で、看取り部会での市民に向けた出前講座や連携の研修会を行っている。中学生等の「いのちの授業」へ出かけたり、救急隊から出動の話や、死後の話をしたりしている。

## 4. 今後の計画

来年度ブロック会、2回を予定する。

11/11ブロック交流会、杉原CN参加予定。

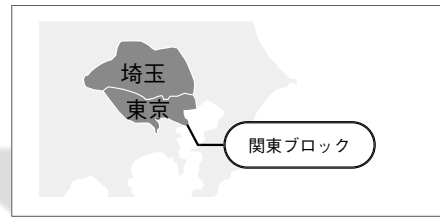
## 5. 次年度体制

理事：黒崎CN継続。ブロック長：杉原CN。

2017.10.22 文責 佐藤富子

#### (4) 関東ブロック

正会員数 63名 (ブロック長：廣川直美氏)



##### ○ブロック会議

1. 名称：第1回 関東ブロック 会議
2. 実施日時：2017年4月8日(土) 10時～12時
3. 会場：目黒区田道住区三田分室
4. 参加人数：計5人(東京都4名/埼玉県1名)
5. 活動内容の報告

##### (1) 活動の目的

平成29年度 関東ブロック活動内容の検討、企画

##### (2) 具体的な内容

1. 平成29年度活動企画
  - 1) 研修計画 9月、2月実施
  - 2) 広報誌発行 6月、11月
  - 3) 新規社員の獲得

##### (3) 活動の効果

平成29年度の活動を通じて会員同士の交流を図り、他者の活動から自身を振り返る機会を得る事で質向上につながる。  
情報を発信する機会を作ることで、会員同士の交流や新規獲得につなげる。

##### ○ブロック会議

1. 名称：第2回 関東ブロック 会議
2. 実施日時：2017年5月13日(土) 10時～12時
3. 会場：目黒区田道住区三田分室
4. 参加人数：計5人(東京都4名/埼玉県1名)
5. 活動内容の報告

##### (1) 活動の目的

平成29年度 関東ブロック活動内容の企画

##### (2) 具体的な内容

1. 研修計画 9月 テーマの検討を行い「ファシリテーション基礎講座」と決定 講師選定後日程を決める
2. 広報誌内容の検討 9月の研修案内と合わせて発送。6月下旬予定  
ブロック活動は表は全体像を表記、裏面はH28年開催の内容を記載
3. 定期総会の出席、会費未納者への働きかけを実施

(3) 活動の効果

平成 29 年度の研修の具体的な内容が決定。講師選定を来ない実施に向けて活動できる。  
社員の質の向上に役立つ企画になっており、今後実践の場でも役立つ上個人の自身にもつながる研修になる。  
広報誌を継続で発行できることでより一層活動内容の周知を図る機会につながる。

○ブロック研修会

1. 名 称：第 1 回 関東ブロック研修 「ファシリテーションの基礎」
2. 講 師：NPO 法人ジャパンマック 代表理事 岡崎直人 先生
3. 実施日時：2017 年 11 月 19 日（日） 13 時 30 分～16 時 30 分
4. 会 場：日本財団ビル 会議室
5. 参加人数： 計 12 人（東京都 11 名/埼玉県 1 名）
6. 活動内容の報告

(1) 活動の目的

訪問看護認定看護師としてファシリテーションの基礎学ぶ  
会員通しの交流を深める

(2) 具体的な内容

1. 「ファシリテーションの基礎」についての講演  
講師 NPO 法人 ジャパンマック 代表理事 岡崎直人氏
2. 「ファシリテーションの基礎」の講義とグループワークから概念及び実践の方法を学んだ  
4 人でのグループを作り、自分たちで「テーマ」を決め、各自がファシリテーターを体験して学んだ。当初参加申し込みは 16 名であったが、当日欠席があり 12 名となった。

(3) 活動の効果

1. 会員のアンケート 別紙参照
2. 小人数であったがアンケートの結果からも好評価を得た。実践力及びグループワークで認定看護師の先輩、後輩の交流ができ人脈が広がった。

(4) その他

参加者では 2017 年、2016 年の合格者も多く参加した。  
参加理由としてテーマが基礎的な内容であった事、協議会がどのような事をしているのか体験してみたいという理由があった様子。

○ブロック研修会（予定）

1. 名 称：第 2 回 関東ブロック研修 「地域で活動している仲間の報告と交流」
2. 実施日時：2018 年 3 月 10 日（土） 13 時 30 分～16 時
3. 会 場：貸会議室のクラッシー新宿御苑店



平成 29 年度 訪問看護認定看護師協議会 関東ブロック会議（第一回）

関東ブロック会

平成 29 年 4 月 8 日（土）

10：00～12：00

田中、山田、井上、佐伯、廣川

前年度

- ・ 広報誌（活動内容のお知らせ）の発行は評判が良かった。  
ラスクルで行うが代引きができず、個人振り込みになるのが課題

今年度の計画

- ・ 9 月 第 1 回 訪問看護認定看護師 2 年目以上を対象とした研修
  - \*ファシリテーターについて
  - 講師を次回検討
  - 講義を受講した方（会員）を登録して今後のグループワークのファシリとして
  - 依頼文を出してポイントにする
- ・ 2 月 第 2 回 訪問看護認定看護師 1 年目～2 年目を対象とした研修・交流会
  - \*プレゼンテーションについて
  - 活動報告を認定看護師（会員）が行う 依頼文を出してポイントにする

広報誌発行（2 回）

- ・ 6 月
- ・ 11 月

配布先と対象者

- ・ 関東ブロック会員
- ・ 訪問看護認定を獲得している看護師
- ・ 総会やセミナーで配布する

新規獲得の取り込み

- ・ 全国の前年と本年の総数と新規数 退会者 の確認する
- ・ 新規認定看護師（7 月）と更新(9 月)以降になる
- ・ 前年と同様に看護協会から訪問看護認定看護師のリストなどから勧誘していく
- ・ 認定看護師（訪問看護）更新研修の場所で宣伝（広報誌）と入会案内を配布する
- ・ 財団と聖路加の連絡網から送る

次回平成 29 年 5 月 13 日（土）10：00～12：00

平成 29 年度 訪問看護認定看護師協議会 関東ブロック会議（第 2 回）

平成 29 年 5 月 13 日（土）

10：00～12：00

目黒区田道住区三田分室

田中、山田、井上、佐伯、廣川

## 1. 各ブロック長合同会議の報告

- ・関東ブロックの本年度の活動計画の報告をしました
- ・6月3日（土）の総会で承認を得ることになります
- ・ロゴマークとホームページを作る予定です
- ・総会 30 名弱のため参加と年会費未納の方がいますので納入のお声をかけてください
- ・関東ブロックの看護研究は高橋洋子さん、渡邊由美さん、平野智子さんが進めています

## 2. 今年度の関東ブロック

- ・関東ブロックは東京と埼玉で人数が多いため 各エリアの代表を窓口や今活動したり 埼玉での認定看護師会に加入の誘い、サイボウズなど利用か 講義の相談やプレゼンの相談、講師依頼などができたらと考えています。
- ・9月研修会：2日・16日・30日土曜日午後 どちらか（講師の日程に合わせる）  
場所：日本財団  
テーマ：ファシリテーション基礎講座  
\*講師の先生が決まり次第 チラシ作成 6月の広報誌と一緒に6月後半に送る  
参加者：協議会に加入している方は参加可 ほかのブロック（千葉や神奈川なども可）  
未加入者は3000円  
訪問看護認定看護師に限るかは協議会に確認します（広川さん）
- ・6月の広報誌の作成  
ブロック活動：サイボウズで見直しを行う 写真やアンケートを入れる  
活動報告・研修のお知らせ：サイボウズで見直しを行う
- ・送付方法  
未加入者は協議会のパンフレットと一緒に送る

次回 平成 29 年 7 月 1 日（土曜日）午後 場所は決まり次第お知らせ  
広報誌の送付を行う

(社) 日本訪問看護認定看護師協議会

# NEWS



Supported by  日本 THE NIPPON  
財団 FOUNDATION

## 日本訪問看護認定看護師協議会

2009年8月に全国の訪問看護認定看護師が「実践」「指導」「相談」の経験・知識を持ち寄り、相互の交流を図ることによって、より一層、在宅医療・看護・ケアの質の向上と専門性を高めていけるよう「日本訪問看護認定看護師協議会」として設立。

2014年10月には「一般社団法人化」され、更なる発展を目的としています。

## 事務局 公益財団法人日本訪問看護財団内

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 5-8-2 日本看護協会ビル5階

電話：03-5778-7008 FAX:03-5778-7009

E-mail: kyogikai@jvnf.or.jp

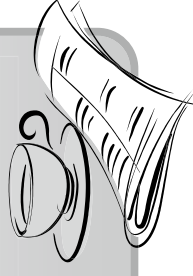
ホームページアドレス [http://www.jvnf.or.jp/post\\_13.htm](http://www.jvnf.or.jp/post_13.htm)

《関東ブロック委員》

ブロック長：廣川直美（東京） ブロック委員：田中千賀子（東京）  
井上京子（東京）、山田富恵（東京）、佐伯聡子（埼玉）

## TOPICS

# 入会案内 研修開催のお知らせ



関東ブロック 2017.10 発行

添付資料⑧

## ブロック活動

関東ブロックの今年度の活動は2回の研修会を企画しています。地域包括ケアシステムの構築への動きが益々盛んになってきている中で、多職種連携が切っても切り離せない状況になっています。担当者会議など活動の中で「看護師さんは怖い！」と言われてしまう事もありますよね！少しでも連携がスムーズにいくように「ファシリテーションの基礎」を企画しました。2回目は皆さんの中からも講師をお願いしポイントゲット企画も検討中！ご参加下さい！

## 入会方法

入会のお申込みは「公益財団法人日本訪問看護財団ホームページ」内のバナーをクリックして「入会のご案内」からお申込み下さい。正会員の入会金 5,000円 年会費5,000円 合計10,000円です。2年目以降は年会費 5,000円です。

入金確認後正会員とし登録され、会員証がお手元に届きます。研修の際は会員証をご持参ください！

研修会当日の入会も可能です！！

# 活動報告



「認定看護師として看護の質評価を考える」を

基本テーマとして開催

- 平成 28 年 10 月 15 日（土）開催  
「訪問看護認定看護師に求められる現状と課題」  
講師：日赤看護大学 教授 福井 小紀子先生  
場所：公益財団法人 日本財団 2 階会議室



# 平成 29 年度 研修会のお知らせ

開催日予定日：平成 29 年 11 月 19 日（土）13：30～

テーマ「ファシリテーションの基礎講座」

講師：NPO法人 ジャパンマック

代表理事 岡崎 直人 先生

\* 研修の詳細については別紙案内を確認下さい。

## 学会 ～10月・11月開催予定～

☆「第 16 回 日本看護技術学会 学術集会」

開催日 平成 29 年 10 月 14（土）～10月 15 日（日）

場所 日本赤十字看護大学（東京都渋谷区）

学会ホームページ：<http://www.isnas16.jp/>

☆「第 7 回 日本在宅看護学会 学術集会」

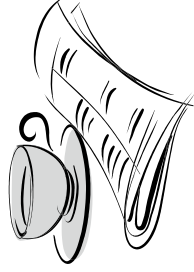
開催日 平成 29 年 11 月 25 日（土）～11 月 26 日（日）

場所 山梨県立大学看護学部 池田キャンパス（甲府市）

学会ホームページ：[http://www.zaitakukango.com/shukai\\_7th/top.html](http://www.zaitakukango.com/shukai_7th/top.html)

(社) 日本訪問看護認定看護師協議会

# NEWS



Supported by  日本 THE NIPPON  
財団 FOUNDATION

## 日本訪問看護認定看護師協議会

2009年8月に全国の訪問看護認定看護師が「実践」「指導」「相談」の経験・知識を持ち寄り、相互の交流を図ることによって、より一層、在宅医療・看護・ケアの質の向上と専門性を高めていけるよう「日本訪問看護認定看護師協議会」として設立。

2014年10月には「一般社団法人化」され、更なる発展を目的としています。

## 事務局 公益財団法人日本訪問看護財団内

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 5-8-2 日本看護協会ビル5階

電話：03-5778-7008 FAX:03-5778-7009

E-mail: kyogikai@jvnf.or.jp

ホームページアドレス [http://www.jvnf.or.jp/post\\_13.htm](http://www.jvnf.or.jp/post_13.htm)

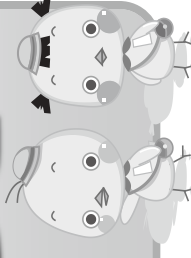
《関東ブロック委員》

ブロック長：廣川直美（東京） ブロック委員：田中千賀子（東京）

井上京子（東京）、山田富恵（東京）、佐伯聡子（埼玉）

## TOPICS

# 入会案内 研修開催のお知らせ



関東ブロック 2018.2 発行

## ブロック活動

関東ブロックの今年度の活動は2回の研修会を企画しました。第2回目は「活動報告」です！仲間たちの活動から自分自身の活動へのヒントを得る機会になれば幸いです！日々の悩み、ちよっと頑張った思い出。みんなで語らい今後の活動の礎になれば良いですよ！今回4名の方には制度改正等多忙な時期に原稿を作り、発表をしていただきます。ふるってご参加くださいね～(^^)／

## 入会方法

入会のお申込みは「公益財団法人日本訪問看護財団ホームページ」内のバナーをクリックして「入会のご案内」からお申込み下さい。正会員の入会金 5,000円 年会費5,000円 合計10,000円です。2年目以降は年会費 5,000円です。

入金確認後正会員とし登録され、会員証がお手元に届きます。

研修の際は会員証をご持参ください！ ☆会員の皆様には更新の案内中です！

**研修会当日の入会も可能です！！**



## 活動報告

テーマ：「ファシリテーションの基礎」

平成29年11月19日（日）13：30～16：30で開催しました。

講師：岡崎直人先生（NPO ジャパンマック 代表理事）

地域の多職種の皆さんとの話し合いの場で、ファシリテーターする役割を担う事が多くなってきている中で「ファシリテーションの基礎と参加型グループワークによる演習」を分かりやすく講義いただきました。特に従来型リーダーとファシリテーターとの違いや連携がうまくいかない時の3つの視点、またファシリテーターとしての姿勢や発言を促すテクニク、ポジションマッピングの活用等基礎編とはいえ「目からうろこ」の研修でした



～終了後のアンケート～

〇ファシリテーターとしてどのように関わって行くのか、また自分の思考の陥りやすいパターンなどざっくりばらんに話せてよかった。今後役立てたい  
〇人の話を聞き、自分の話を聞く時の“自分の癖”に気付くことができました。また、研鑽していきたい。とても楽しく参加できました。



## 平成29年度第2回研修会のお知らせ

開催日予定日：平成30年3月10日（土）13：30～

テーマ「地域での活動報告」～実践報告～

講師：訪問看護認定看護師協議会 会員

佐藤久美子氏、鬼和子氏、インクラン裕美氏、下岡三恵氏  
後半は交流会を開催します！

\*研修の詳細については別紙案内を確認下さい。

## 学会等 ～2月・3月開催予定～

☆第8回東京都在宅医療推進フォーラム

「これでいいのか？東京の在宅医療連携～さまざまな地域性の中で～」

開催日 平成30年2月24日（土）14:00～18:00

場所 東京都医師会館

参加申し込み：事務局 e-mail: [forum@hiro-clinic.com](mailto:forum@hiro-clinic.com)

☆第6回日本臨床倫理学会

「多職種協働と臨床倫理」

開催日 平成30年3月17日（土）～3月18日（日）

場所 東京都医師会館

学会ホームページ <http://face6.umin.jp/>

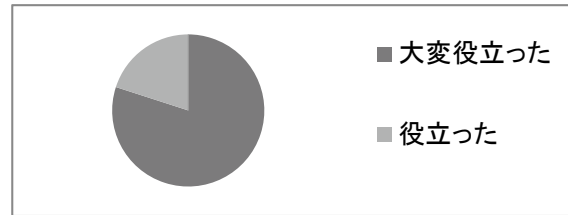
訪問看護認定看護師関東ブロック会研修アンケート2017.11.19

出席者数 12

回答率 83%  
回答数 10

## 1 研修の内容は今後の研修に役立ちましたか？

|   |            |   |
|---|------------|---|
| ① | 大変役立った     | 8 |
| ② | 役立った       | 2 |
| ③ | あまり役立たなかった | 0 |



## 自由記載

① 大変役立った

※ ファシリテーターとしてどのように関わっていくのか、また自分の思考の陥りやすいパターンなど、わかった。今後役立てたい。

※ カタカナ語で何となく理解しているつもりでいた知識を再認識できてよかったです。

※ 連携がうまくいかないときに生じている事、連携がうまくいくための説明はとても理解できた。

## 2 グループ討議について

|   |            |   |
|---|------------|---|
| ① | 大変役に立った    | 8 |
| ② | 役立った       | 2 |
| ③ | あまり役立たなかった | 0 |



## 自由記載

① 大変役立った

※ 柔軟な考え、Nsとして陥りやすい方向についてざっくばらんに話せて良かった。

※ 人の話を聞き、自分の話を聞く時の”自分の癖”に気づくことができました。また、研鑽していきたいです。とても楽しく参加できました。

※ 自分の意見をまとめて発表することは、自分の考えを伝えやすかった。

## 3 今後のブロック会の活動についてご意見を聞かせてください

## 1) 開催時期について適切でしたか

|   |     |   |
|---|-----|---|
| ① | はい  | 4 |
| ② | いいえ | 5 |

月頃希望

|       |    |
|-------|----|
| 9月希望  | 1名 |
| 10月希望 | 4名 |

## 2) 開始時間について適切でしたか

|   |     |    |
|---|-----|----|
| ① | はい  | 10 |
| ② | いいえ | 0  |

時頃希望

|       |    |
|-------|----|
| 土曜日希望 | 1名 |
|-------|----|

## 3) 研修内容について 複数回答

|   |        |   |
|---|--------|---|
| ① | 講義形式   | 4 |
| ② | グループ討議 | 7 |
| ③ | その他    | 1 |

|        |    |
|--------|----|
| 講義+G討議 | 4名 |
| G討議    | 3名 |
| 回答なし   | 1名 |
| その他    | 1名 |

## 自由記載

※ 自分の意見を発表する、人の意見をまとめる等の練習を行う場、実践の場になるといいと思います。

※ 温かい雰囲気でした。また参加したいと思えました。

※ 講義もGWも様々な意見を聞け、大変勉強になりました。

※ 楽しく参加できました。

※ 身近なテーマで内容の濃い研修会でした。

## (5) 南関東ブロック

正会員数 34名 (ブロック長:豊田好美氏)



### ○ブロック会議

1. 名称: 2017年度第1回 南関東ブロック会議
2. 実施日時: 2017年5月12日(金) 16時30分~18時
3. 会場: 公益財団法人 日本訪問看護財団会議室
4. 参加人数: 計 4 人 (神奈川県3名/長野県1名)
5. 活動内容の報告

#### (1) 活動の目的

平成29年度南関東ブロック活動計画詳細検討  
第1回理事・ブロック長合同会議内容共有

#### (2) 具体的な内容

- 1) 10月 南関東ブロック研修会及び交流会開催  
場所 神奈川県(横浜市)予定  
研修会→午前『“実践力 事例検討会” ~みて・考え・理解して~』講師を依頼  
目的 認定看護師が現場で開催できること  
交流会→午後
- 2) 1月 南関東ブロック会議
- 3) 各県での認定看護師の連携→長野県は連携した活動がある  
山梨県は少人数のため看護協会活動とも重なりあり  
神奈川県はこれから取り組んでいく  
6月認定看護師総会にて名簿開示議案承認されたら活用する
- 4) 非会員への入会活動→各県での会員連携や名簿、パンフレット等を活用しすすめていく

#### (3) 活動の効果

10月ブロック研修会及び交流会についての準備と役割が具体化された  
各県の現状とこれからの取組みについて共有された

### ○ブロック研修兼交流会

1. 名称: 2017年度南関東ブロック研修会及び交流会
2. 講師: 公益社団法人日本看護協会健康政策部保健師課 村中峯子先生
3. 実施日時: 2017年10月15日(日) 10時~15時
4. 会場: 医療介護複合施設 ONE FOR ALL 横浜
5. 参加人数: 計 10 人 (神奈川県8名/長野県2名)
6. 活動内容の報告



(1) 活動の目的

1. 事例検討による訪問看護の実践能力や相談指導能力の向上
2. 訪問看護に関する知識や経験の共有及び協議会入会広報

(2) 具体的な内容

(ア) 事例検討会

“実践力 Up 事例検討会”～アセスメントの深め方～

講義 公益社団法人日本看護協会健康政策部保健師課 村中峯子先生

事例①「今後どのように対応しているのか苦慮している事例」

花岡(事例提供)、飯島(ファシリテーター)、森元(板書)、鈴木、伊藤

事例②「本人の思いが強く介護体制の再検討に困難を感じている事例」

豊田(事例提供)、川瀬(ファシリテーター)、村本(板書)、塩崎、阿部

- ・事例提供者、ファシリテーターと板書は事前に事例検討方法資料を参考にする
- ・講義後、2事例を2グループで実際にホワイトボード上に事例検討

(イ) 交流会

- ・認定看護師としての活動報告（個人での活動、長野県は訪問看護認定看護師会の活動）
- ・訪問看護に関する課題や対策について
- ・回避未入金者への声掛け及び非会員への入会広報

(3) 活動の効果

- ・事例検討会ではどちらも複数課題をもつ事例であった。短時間ながら課題に焦点をあてた事例検討及び事例検討会の展開方法や開催準備や実際の役割を学ぶことができた。
- ・交流会では認定1～2年目、5年目前後、10年程度の看護師それぞれの意見交換が行なえた。認定看護師としての活動の他、教育や管理について多面的な情報交換ができた。
- ・未入会者は1名出席され入会した。

○ブロック会議

1. 名 称：2017年度第2回 南関東ブロック会議
2. 実施日時：2018年1月27日（土） 10時～12時30分
3. 会 場：一般社団法人 鶴見区医師会在宅部門会議室
4. 参加人数：計3人（神奈川県3名）
5. 活動内容の報告

(1) 活動の目的

2018年度ブロック活動計画及び平成31年度ブロック役員交代に向けた準備

(2) 具体的な内容

①2019年度ブロック役員交代について

- ・次年度は山梨/長野からブロック理事、神奈川からブロック長選出
- ・任期2年、山梨/長野と神奈川で交互に選出
- ・時期ブロック理事、ブロック長、各県役員候補者をあげ、今年度のブロック活動に参加してもらう。
- ・会員がブロック役員を経験し協議会の普及活動ができる人材を増やしていく

②2018年度南関東ブロック活動について

- ・2018年度ブロック活動目標 「ブロック活動を知ってもらおう」
- ・協議会活動が活発になるよう、今年度同様会員、非会員へのブロック活動広報を行う

③活動計画

(ア)ブロック会議 3回/年 5月、10月(交流会前)、1月

(イ)研修会、交流会

- ・講演会(午前)と意見交換会(午後)

・9月、10月の土曜日に日程調整

・多死時代、地域での看取りなど地域包括ケアの中で訪問看護師及び訪問看護認定看護師に求められる役割について

・講師候補者と日程調整

・場所 ONE FOR ALL 戸塚予定

(ウ)会員活動参加と非会員への入会活動について

- ・神奈川では昨年同様に県内での会員の集いを計画(7月)非会員の協議会入会を勧めていく

(3) 活動の効果

- ・今年度役員で1年活動。来年度はゆとりをもった活動計画準備をしたい
- ・今年度は2018年度への役員交代準備も兼ねた活動が求められる

## 南関東ブロック研修会及び交流会レポート

### 事例検討会

“実践力 Up 事例検討会” ～アセスメントの深め方～

講義 公益社団法人日本看護協会健康政策部保健師課 村中峯子先生

事例①「今後どのように対応しているのか苦慮している事例」

花岡(事例提供)、飯島(ファシリテーター)、森元(板書)、鈴木、伊藤

事例②「本人の思いが強く介護体制の再検討に困難を感じている事例」

豊田(事例提供)、川瀬(ファシリテーター)、村本(板書)、塩崎、阿部

- 事例提供者、ファシリテーターと板書は事前に事例検討方法資料を参考にする
- 講義後、2事例を2グループで実際にホワイトボード上に事例検討
- 

#### 活動の効果

- 事例検討会ではどちらも複数課題をもつ事例であった。短時間ながら課題に焦点をあてた事例検討及び事例検討会の展開方法や開催準備や実際の役割を学ぶことができた。



### 交流会

- 認定看護師としての活動報告
- 訪問看護に関する課題や対策について
- 回避未入金者への声掛け及び非会員への入会広報

#### (3) 活動の効果

- 交流会では認定1～2年目、5年目前後、10年程度の看護師それぞれの意見交換が行なえた。認定看護師としての活動の他、教育や管理について多面的な情報交換ができた。
- 長野県は4エリア11名の訪問看護認定看護師が年2回交流、研修会の開催や信州大学と共

同した在宅アドバイザーとしての関わる機会ができてきている

- 指導教育活動として、特養にて看取りケアの講師、ヘルパー向け感染予防講義講師、訪問看護連絡協議会や看護協会事業の講師、社内 30 ステーションのリソースナース、法人内 14 ステーションの勉強会講師、病院研修講師、看護学校講師、大学の就職説明会への参加、消防学校での講師、事業所内教育研修課の立ち上げ、県教育ステーションとして活動等、事業所内や学校、地域で多様に活動していた。
- 講師依頼に至るまでは地域の勉強会に参加したりして、人脈を広げていた
- 日々の活動でも、自施設のみならず地域の管理者からの相談を受けていたり、ケアマネジャーやヘルパー事業所の勉強会に参加したり、多職種との関係を大切にしたり専門用語を控えたりするなどを意識した関わりを持っていることが共有できた。
- 市民への認知度が低い訪問看護をいかに知ってもらうか？その方法も模索しつつ自治体と共済して実践しはじめている活動もあった
- ブロック活動については、参加するのに緊張する、いろいろな意見の人がいるが集まりお互い高め合える集まりがよい、先輩からのじょうほうが聞けるのが良い、地域の情報が聞ける、定期的に集まれる地域にしていきたいなどの意見があった。
- 認定過程卒業時はいろいろな案内があり、よくわからない。合格発表があってから勧誘されると良いかもとの意見があった
- 未入会者は 1 名出席され入会した

## (6) 東海北陸ブロック

正会員数 87名 (ブロック長：近藤佳子氏)



### ○ブロック研修会

1. 名称：第9回 東海北陸ブロック会
2. 講師：松下容子氏、村松美佐子氏、中村いお美氏
3. 実施日時：2017年9月23日(土) 13時30分～16時30分
4. 会場：名古屋市立大学 看護学部棟 501教室
5. 参加人数：計 43 人 (愛知県 31名/岐阜県 7名/三重県 5名)
6. 活動内容の報告

#### (1) 活動の目的

- ①日本訪問看護認定看護師協議会の動向をしる
- ②新規入会員の紹介と、会員相互の交流を図りネットワークを作る
- ③他者の実践報告を聞くことにより、自身の活動を振り返り今後の活動の参考にする

#### (2) 具体的な内容

- ①日本訪問看護認定看護師協議会からの情報提供 野崎代表
- ②実践報告  
テーマ『訪問看護認定看護師の役割を考えよう』それぞれの課題に向けた活動報告  
\* 特定看護師について 松下容子氏  
\* 岐阜県での取り組み 村松美佐子氏  
\* 多職種連携の顔の見える関係づくりについて  
\* 愛知三河地区研究の取り組み 山端二三子氏
- ③グループワークを通しての交流  
6～7人のグループで自己紹介後、日頃の活動、悩みなど自由発言(約45分)。その後他のグループとの情報共有を行う。

#### (3) 活動の効果

特定行為研修等、他者の活動報告を聞いて刺激を受けた。またグループワークで情報交換をする事により、問題や悩み解決に繋がったり、自分の新たな課題の発見ができた。

#### (4) その他

参加者事前アンケートでの悩み・聞きたいこと・意見

- ・ 特定行為の研修について
- ・ 看護研究の方法
- ・ 地域ケアの取り組み
- ・ 活動について

事前アンケートの項目については、同日の実践報告で報告できた

## ○ブロック研修会

1. 名 称：第10回 東海北陸ブロック会
2. 講 師：村井満美子氏、野崎加世子氏、佐藤美穂子氏
3. 実施日時：2018年2月3日（土） 10時30分～16時00分
4. 会 場：名古屋市熱田区在宅サービスセンター 研修室
5. 参加人数：計 49 人（愛知県 39 名/岐阜県 3 名/三重県 4 名/富山県 1 名/静岡県 2 名）
6. 活動内容の報告

### (1) 活動の目的

- ①日本訪問看護認定看護師協議会の動向を知る。
- ②会員相互の交流を図りネットワークを作る。
- ③ブロック会の活動内容を考える。

### (2) 具体的な内容

- ①日本訪問看護認定看護師協議会からの情報提供（別紙資料あり）野崎代表
- ②更新申請の情報提供
  - ・ 5年目更新…講師；村井満美子氏
  - ・ 10年目更新…講師；野崎加世子氏
  - ・ ポイント；毎年更新申請の内容が変更されているため、ホームページを確認し対象者は更新申請の手引きを熟読する。  
認定看護師としての活動をしているかを振り返る。  
対象年でなくても実践活動、実績ポイントの必要事項を細目に整理しておく。
- ③『介護報酬・診療報酬同時改訂について』～訪問看護認定看護師としての課題を考える～
  - ・ 講師；日本訪問看護財団 常務理事 佐藤美穂子氏
  - ・ 内容；地域包括ケアシステムの推進  
訪問看護の実態と訪問看護への期待  
平成30年度報酬改定の動向
- ④ブロック会の活動内容を考える…事前に会員よりもらった意見・要望を集計、共有
  - ・ 困りごと；退院調整看護師で更新ができるか不安。  
ステーションの認定看護師から、医療機関の認定看護師及び訪問看護に望むことはあるか。

### (3) 活動の効果

- 介護・診療報酬改訂などに関する事項を取り上げ、今後の活動の参考になった。
- 情報交換の場となった。

### (4) その他

- 参加者事前アンケートでの悩み・意見
  - ・ グループでの相談や交流が持てると新たな活動への情報や発想に繋がる。
  - ・ ブロック会の日程を早めに知りたい。
- ※事前アンケートの意見等を報告した。

## (7) 近畿ブロック

正会員数 78名 (ブロック長：長田敏子氏)



### ○ブロック会議

1. 名称：近畿ブロック会議
2. 実施日時：2017年9月30日(土) 9時30分～12時
3. 会場：神戸勤労会館 304号室
4. 参加人数：計9人 (大阪府2名/兵庫県3名/京都府1名/滋賀県1名/和歌山県1名)
5. 活動内容の報告

#### (1) 活動の目的

1. 理事・ブロック長合同会議の報告
2. 近畿ブロックの今後の活動計画

#### (2) 具体的な内容

1. 11月交流会の案内・会費未納者への催促・入会への案内
2. 各県での動向報告
3. 今年の活動計画及び今後の年次計画

#### (3) 活動の効果

1. 近畿ブロックで年1回の実践報告会・交流会を開催する

##### 《目的》

訪問看護 CN の数が増えない、または認知されないのは、CN の実践報告や活動の可視化が不十分な為と考えられる。既に CN として活動(個人・グループ)している人の実践報告は、どのような活動をすべきか悩んでいる CN にとって、大きなヒントになり、今後の質の高い活動につながると考えられる。また、近隣で活動する CN との交流を通じてネットワークの強化を図ることができ、今後共同研究や政策提言へつながることを期待する。

##### 《年間スケジュール》

- 4月 年度第1回ブロック会議 (新ブロック長・代表)
- 6月 (総会終了後) 第2回ブロック会議
- 8月第4土曜日 実践報告会・交流会

##### 《2017年度》

- 日時：1月20日(土) 13時30分～16時30分
- 場所：大阪(府または市)看護協会
- 内容：実践報告 グループワーク

## ○ブロック研修・交流会

1. 名 称：第6回 近畿ブロック研修会・交流会
2. 実施日時：2018年1月20日（土） 14時～16時30分
3. 会 場：兵庫勤労センター（兵庫県神戸市兵庫区羽板通4丁目1-1）
4. 参加人数：計28人（大阪府5名/兵庫県13名/奈良県2名/滋賀県5名/和歌山県3名）
5. 活動内容の報告

### (1) 活動の目的

- ①近畿ブロック内訪問看護認定看護師の活動を共有し、ネットワークの強化・拡大を図る。
- ②地域包括ケアシステムについての理解を深め、看護職に期待される役割を学ぶ。

### (2) 具体的な内容

- |             |  |
|-------------|--|
| 14：00～14：05 | ブロック代表挨拶（日本訪問看護認定看護師協議会 活動紹介）  |
| 14：05～15：00 | 実践活動報告   |
|             | 雨森ちえみ（滋賀：弓削メディカルクリニック）   |
|             | 平岡 桃重（和歌山：訪問看護ステーション麒麟）  |
|             | 大橋 奈美（大阪：ハートフリーやすらぎ訪問看護ステーション）   |
|             | 小林 澄子（兵庫県：塚口訪問看護センター）  |
|             | 高山 雅子（奈良県：阪南中央訪問看護ステーション）  |
|             | 清水奈穂美（大阪：滋賀医科大学）   |
| 15：00～15：50 | グループワーク  |
|             | 各県に分かれ、「H30年 訪問看護認定看護師としてどのような活動をしていけばよいか」<br>（精神分野・障がい分野・小児分野・地域包括ケアなど、分野をグループで選択し話し合う） |
| 15：50～16：10 | グループ発表   |
| 15：10～16：30 | ブロック長・県代表の選出   |
| 16：30       | 閉会挨拶   |

### (3) 今回の活動で得られたと思う点

- ①日本訪問看護認定看護師協議会の活動及び助成（研究・ブロック活動）について直接説明する機会があったことは、協議会の活動がより理解が出来たのではないかと考える。6月の総会、11月の交流会をふまえ、近畿ブロック研修会を1～2月に開催する事を周知でき、今後の定期開催の基礎がつけられたと期待したい。
- ②6名のシンポジストの報告は、個人の活動あり、地域での活動あり、視察旅行の報告あり、大学での教育に関する報告ありとバラエティに富んであり、アンケート結果から参加者全員が「関心を持てた」「まあもてた」と回答している。自由記載にも「これから自己を啓発するよい機会になった」「自分でも取り組みたい内容があり、良い刺激になった」等、今後の自己の活動になんらかの示唆が得られたのではないかとと思われる。



- ③グループワークでは、各県に分かれて話し合い、より地域性にとんだ情報交換が出来ていた。「地域の看護師会を作りたい」「地域にあった災害マニュアルを作りたい」「訪看 CN だけでなく他の領域の CN、CNS と繋がるにはどうしたらいいか」など、より具体的な提案がみられた。アンケート自由記載からも「悩みを聞いてもらった」「先輩から良いアドバイスをもらった」等、交流も出来ていたように思われる。今後、地域での活動のきっかけになる事を期待したい。
- ④アンケートより、今回の研修会が今後の CN としての活動に全員が「大変役に立つ」「まあまあ役に立つ」と回答があった。今回は講師を呼んで行う講義形式の研修会ではなく、お互いの活動を報告し、共有し、話し合う、参加型の研修会だったが、一定の効果はあったと評価する。近畿ブロックは会員数が多いものの、県によって少ない県と多い県のばらつきが大きいという特色がある。会員数の多い県はどのように連携を取っていくか、少ない県は地域の中でどのようなリーダーシップを取っていくか等、それぞれの地域に合った活動を行っていくために、この協議会の助成が効果的に利用できるよう検討していきたい。
- ⑤各県代表、ブロック長の役割について説明することができ、理解して頂く事が出来たと思う。この会で全てを選出することは出来なかったが、来年6月の総会後から新体制で活動できるよう会員全員の協力をお願いしたい。
- また、今回の研修会を開催するにあたって、色々と準備を進めて頂いた県代表の皆様、当日運営に携わっていただいた県代表、兵庫県の会員の皆様にお礼を申し上げます。

#### (4) その他気が付いた点

- ①開催日が京都府訪問看護ステーション協議会の研修日と重なり、京都からの参加が0となってしまった。開催日を決定する時には、他の大きな研修会と重なっていないか、注意が必要である。
- ②今回、シンポジストの候補、推薦等メールで呼びかけを行ったが、メールが届かない人が数名いる。今後は今まで以上にメールによる広報や審議を行う事が多くなると思われる。メールアドレスの変更届の提出や協議会に登録されているアドレスに誤りがないかのチェックを徹底することが必要だと思われる。また、メーリングリストの作成も必要でないかと考える。

## (8) 中四国ブロック

正会員数 13名 (ブロック長：齋藤貴美子氏)



### ○ブロック会議

1. 名称：第1回訪問看護認定看護師中四国ブロック会議
2. 実施日時：2017年6月3日(土) 18時30分～21時
3. 参加人数：計5人
4. 活動内容の報告

#### (1) 活動の目的

1. 平成29年度の活動について
2. 活動内容(案)

#### (2) 具体的な内容

1. 平成29年度の活動について
  - ①認知症の看護研究結果から訪問看護の早期介入の効果のパンフレットを作成しケアマネジャー等へ伝える場を持つ
  - ②非がん患者への訪問看護介入についての研究
  - ③褥瘡ではない創傷ケアの必要な利用者実態の把握、研究
  - ④地域包括ケアシステム構築に向けて訪問看護認定看護師が地域で実践している活動を他職種へ伝える場を持つ
  - ⑤ケアマネジャーへのアドバイザー派遣事業以上の活動案から④を平成29年度の活動とする
2. 活動内容(案)

テーマ：頑張ってます。訪問看護！！

—地域包括ケアシステム構築に向けた訪問看護認定看護師の活動—

日時：①10/28(土) ②10/7(土) ③10/21(土) 13:00～16:00 →会場確認森山さん

場所：広島赤十字病院

当日のスケジュール：

司会：森山・ケアマネジャー

60分～訪問看護認定看護師の活動報告(4～6人を選定、10分～15分/人)

徳島県(邊見) 広島県(野田) →他メンバーに活動内容を確認し発表して頂く

6月中に決定する

60分～フロアとのディスカッション

60分～基調講演 北広島町在住の東條先生(スケジュール確認) →杉本さん確認

主催：訪問看護認定看護師協議会中四国ブロック

後援：広島市、歯科医師会、薬剤師会、ケアマネ協会、看護協会 →森山さん確認

ポスター作り：→杉本さん作成

印刷見積もり・依頼：→森山さん確認(500部印刷)

ポスター配布：中四国全域

出席者の確認：ポスター裏面を出席確認表と日ごろ困っていることを記載できる欄を設け FAX で受け取る→メンバーに依頼する  
今後の予定：役割等の確認を行う。必要あればメンバーを招集する。

## ○ブロック研修会

### 1. 名 称：ブロック研修会

(テーマ) 頑張っています！訪問看護 ー地域包括ケアシステムに向けた活動ー

### 2. 講 師：東條環樹先生

### 3. 実施日時：2017年12月9日(日) 11時～17時

### 4. 会 場：日本赤十字社中四国ブロック血液センター

### 5. 参加人数：計 32 人 (会員=広島県 5 名/岡山県 1 名/愛媛県 1 名/鳥取県 1 名)

(一般参加=24 人：看護師 16 人/介護支援専門員及び看護師 1 人/  
介護支援専門員 6 人/理学療法士 1 人)

## 6. 活動内容の報告

### (1) 活動の目的

地域包括ケアシステムの構築が急務とされる今、地域医療に携わる医師、地域で看護を提供している訪問看護の活動や役割を知り、参加者と共に支え合い育みあう地域づくりを目指すため参加者が自分たちにできることを知る

### (2) 具体的な内容

13：00～13：30 受付  
13：30～14：30 基調講演「北広島町での在宅看取りの実際」  
北広島町雄鹿原診療所所長 東條環樹先生  
14：30～14：40 休憩  
14：40～15：10 訪問看護の実際を紹介  
鳥取県 鈴木妙「鳥取県訪問看護認定看護師活動報告」  
愛媛県 田村美樹枝「地域の中で重症児を支える」  
広島県 杉本由起子「訪問看護ステーションからの発信」  
15：10～15：20 質疑応答、東條先生からコメント  
15：20～15：30 グループワーク  
(テーマ：支え合い育みあう地域づくりをめざして私たちができること)  
15：35～15：45 発表  
15：45～15：50 まとめ  
15：50～16：00 閉会の挨拶 アンケート記入

### (3) 今回の活動で得られたと思う点

- ・他県の活動を知ることができステーションの活動に興味を持てた
- ・訪問看護の活動はまだ知られていないことが多く、少ない人数であるが在宅看取りを含めた訪問看護の活動を知ってもらう機会となった

- ・他県の活動を知ることができステーションの活動に興味を持てた
- ・訪問看護の活動はまだ知られていないことが多く、少ない人数であるが在宅看取りを含めた訪問看護の活動を知ってもらう機会となった
- ・東條先生の講演を聞いて在宅での看取りを頑張ろうと思え、気負わずに自然体で訪問しようと思えた
- ・中四国ブロックの認定看護師が集まり活動できたことで、自分自身の役割や協働することの大切さを実感できた

(4) その他気づいた点

- ・他の研修会と重なっており日程調整が必要であった
- ・会場がわかりにくかったが、会場は広く快適であった



平成 29 年度 日本訪問看護認定看護師協議会 中四国ブロック研修会  
グループワーク

「支えあい、はぐくみあう地域づくりを目指して、私たちにできること」

- ・地域性に添った訪問看護、在宅医療の啓蒙、多職種との関係性の構築が必要
- ・交流研修、訪問看護の出前講座などステーションからの発信
- ・ケアマネとしての知識も生かして、地域包括ケアシステムのアピールしていく
- ・ステーションの生き残りをするために、強みを生かす。アピールしていく
- ・今まで地域への貢献ができていなかったため、参考になった（病院付属の ST）
- ・行政とつながりにくい。地域ケア会議に呼んでももらえないため、今後働きかけたい  
交流会、SNS（トラブルもあるが）で顔とつながりができたら良い
- ・かかりつけ医が最期まで見てくれるように、働きかけたい
- ・病院付属の ST だと、外の活動がしにくい→しぼりがなく、スピードが求められる
- ・日々の業務におわれ、何をしたらいいのかわからない
- ・ステーションが多くなり、地域で患者を取り合う→競争がある→ごく一部のケアをするのではなく、  
情報を共有する
- ・社会や地域への働きかけ→郵便局、スーパー、銀行へのサポーター養成講座の開催など
- ・地域の掃除、あいさつ運動への参加（事業所の T シャツを着て）→地元の人に知ってもらう。地域  
でのボランティア
- ・看護という枠にしばられない、制度にしばられない、自立支援へのサポートの構築
- ・職種が壁を作っている。（看護師だから、CM だからではなく）
- ・地域によって、地域の関係性が異なる。山間部なら、隣の生活状況が分るが、都市部では隣の人が  
わからない
- ・地域包括ケアシステムで地域につなげていくことの難しさ。誰に、どのようにつなげていいのかわ  
からない
- ・地域によって、社会資源の数や種類が異なる。不十分な地域はどうすればいいのか
- ・利用者、Dr、訪問看護師との距離感がよくわからない
- ・価値観、生命観まで話がききづらい
- ・ステーションの強みを出していきたい。出前講座を考えたい。→ST の認知度を上げたいこれから、  
外へ出ていき、外からの相談を受けるようにしていきたい
- ・地域ケア会議では、町内会見守りを作る→地域包括とつながる→大切な会議となる
- ・ステーション内での問題も安心して話せる、解決できるようにならないといけない
- ・新管理者として学びを深めたい
- ・CM としてより良い支援をしてもらえる、同じ目線で仕事ができるステーションと連携がある
- ・管理者の考えで異なる。訪問看護師の相談も聞いてもらえるように

研修会の感想（野田）

- ・準備がもう少しできていれば、人が集まったと思う（日にち、内容など）  
日にちは他の研修と重複していた  
場所は費用はかからなかったが、わかりにくく、セキュリティが厳しかった

中の会場は広く、快適だった

- 講師、3名の演者の内容が医療、ステーションの活動だけではなく、地域住民や、制度を超えた（コストの取れない）活動内容報告だったため新しい視点でよかった
- CM、訪問看護師だったが、他の職種も入れればまた、異なった地域への働きかけなど、聞くことができたのかと思う
- 他県や地域性も分り、そのステーション活動に興味を持てた。自分に何ができるかは不明。日々の業務に追われているのが現状。
- 所属場所が遠いため、ラインなどの情報共有は良かったが、書面では活発意見が出にくい

添付資料⑬

H29年度 日本訪問看護認定看護協議会 中四国ブロック研修会 アンケート結果

H29年12月9日（土）日本赤十字社中四国ブロックセンターにて  
「頑張っています！訪問看護～地域包括ケアシステムに向けた活動～」と題し行った。

参加者：32名（講師1、演者・司会・スタッフ7、参加者24）のうちアンケート回収率84.375%  
（男性2、女性30）

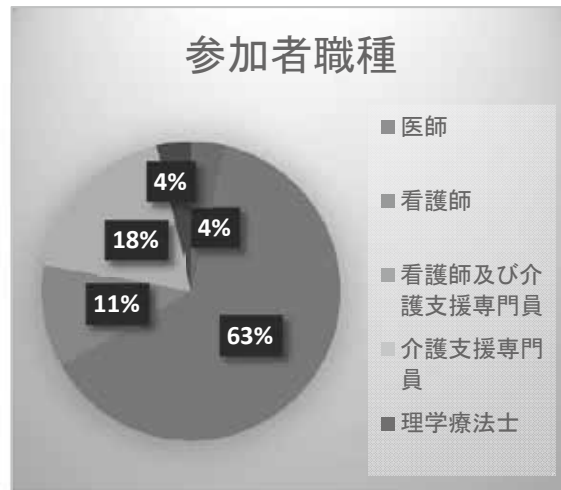
1.参加者自身の設問

問1. 年齢構成



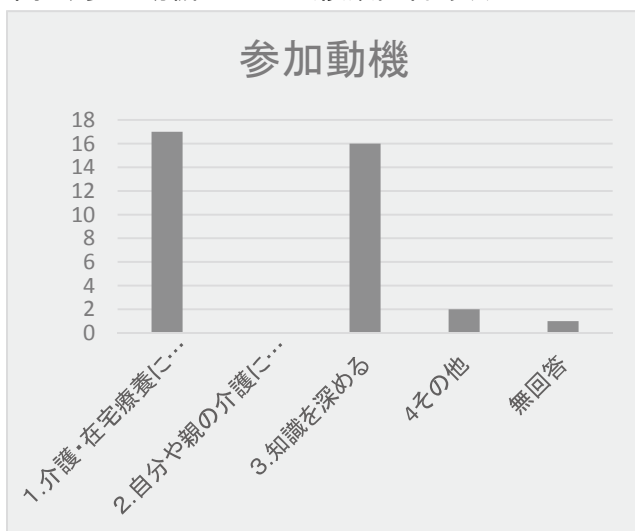
40～50歳代の参加者が全体の80%を超えていた。

問2. 勤務場所と職種



訪問看護ステーションからの参加者が80%を超えており、そのため職種は看護職が多かった。

問3. 参加動機について(複数回答あり)



その他は「やぶ医者大賞」にひかれた東條先生の話が聞きたかった と記載あり。

参加動機は介護・在宅療養に関心があり、知識を高めたいがほとんどだった。

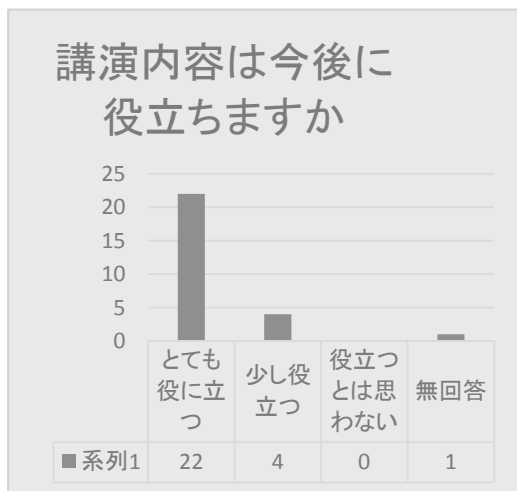
2.研修会への設問  
問1、研修会内容は



その他は「期待以上です」と記載あり。

研修会内容は参加者にとって、期待通り・ほぼ期待通りとの回答であった。

問2、講演内容は、今後役に立つ内容でしたか



講演内容は今後役に立つ内容であったとの反応だった。

問3 在宅看取りについての意見(自由記載)

- ・本人や家族が希望される場所で看取りが出来る支援するのが役目と思います。
- ・高齢者の在宅看取りに不安のある家族は多く、やはり病院で・・・と言われる事が多いです。最近では50～60代の方の末期がんが多く、在宅看取りの説明など難しいです。
- ・自然な流れで看取りがしていけるように関わりを持つことが大切と思いました。バックベッドがあることが、安心感につながると実感しましたが、バックベッドがなくても、安心して過ごせるようにしていけたらと考えています。
- ・本人・家族がいつもの生活・普段の生活をして死を迎えられるために、サポートすることが大切との話がとても印象的で納得のいくものでした。
- ・医療者・介護の人には普及しつつあると思いますが、一般市民のACPがはっきりしていないと思う。自分達の最期を考えられていない。
- ・東條先生のようにカンファレンスに積極的にご参加いただける在宅ケアが成立することを望みます。がん患者だけでなく、先生のおっしゃるように、認知症の方へのケアサポート体制を確立することを望みます。看取りに抵抗を示されるのは、訪問看護の現場にもあるとケアマネの立場として見え隠れします。自分が抱え込まず、ご家族・ご本人が主役になれるサポートができるチームづくりができるよう考え方のスイッチを切り替えます。自分達が主役でなくご本人の思いをサポートします。
- 東條先生のテレビドキュメントを拝見してからすばらしいと思っておりました。お話が聞いて勉強になります。ありがとうございます。新聞も拝読しておりました。テレビも生の先生もかっこよかったです。
- ・本人の思いと家族の思いが刻々と変わる。どのようなことが起こるか見当がつかない。



(予測が難しい)等のようなことがあるので、いろいろなことに備えることが大事だと思います。

- ・”ふつうを極める”と言う事がとても心にとまりました、これからの訪問看護に役立て、寄り添った看護の実践に努めたいと思います。
- ・本人が決める、その時(最期)に向けて何をすべきかを考える、必要性の大きさ、死は生の延長線上にあるということを改めて理解できました。
- ・研修会に参加し、在宅看取りについてもう一度勉強しなおしたいと思いました。
- ・在宅看取りについての講演がとても役に立ちました。気負わず自然体で、訪問看護していきたいと思いました。
- ・本人・家族の思いを大切にしたい在宅看取りができるように関わっていきたくと思います。
- ・がんで亡くなる人の麻薬の取り扱い方について困っている。看護師に初回の投与や流量の変更などを依頼する医師がおり、訪問看護師が地域で実施している。鎮静についても同様で、訪問看護師のリスク管理などの低さが気になる。多死社会となってきたので、非がんの方の看取りについて、今後大切になってくると思う。
- ・早期から、ご本人・ご家族の意向をきき、指導していくことが大切だと思う。わかりやすい指導の繰り返し
- ・在宅の看取りで家族の気持ちがゆれて、主治医の心もゆれて、医療中心になってしまうことも多くあります。今回のお話を聞いて、訪問看護師としてどのように介入していけば良いか考えるきっかけになりました。
- ・ケアマネとしてフットワーク軽く動いていきたいと思います。本人・家族の意思確認をしていきたい。
- ・東條先生のような普通の生活の中からの延長で看取りもできるということを伝えていきたいと思いました。
- ・頑張ります。
- ・看取り時、看護師さんの発言はとても本人家族にとって重要です。(もちろんケアマネジャーと医師もですが)本人や家族の希望をかなえられるよう知恵を出しあいやっていければ良いなと思います。

#### 問4 訪問看護について、訪問看護認定看護師についての意見(自由記載)

- ・地域での活動を伺って、住み慣れた地域で最期まで過ごすことが出来るよう、何か活動していきたいと思いました。
- ・いつもたくさんの研修会を開いてくださりありがとうございます。
- ・訪問看護師さんなくて、在宅での看取りはできない。本当にありがたい存在です。
- ・訪問看護に関する研修を市内全域でもっと行ってほしい。
- ・看護と介護の違いを利用者に説明理解して頂ける様にまず始めないといけないと感じました。
- ・訪問看護認定看護師の方を中心に地域全体の訪問看護の質のレベルアップにつながればと思います。
- ・地域に認められる訪問看護になるために活動していく必要があると思いました。
- ・多職種との連携はとても大切だと思う。お互いを尊重する。

## (9) 九州ブロック

正会員数 31名 (ブロック長：堀口奈緒子氏)



### ○ブロック研修会

1. 名称：平成 27 年度 一般社団法人日本訪問看護認定看護師協議会九州ブロック研修会
2. 講師：寺町芳子先生・堤育子氏・河野智美氏・川崎幸栄子氏
3. 実施日時：2017 年 10 月 21 日 (土) 10 時～16 時 30 分
4. 会場：福岡県教育会館 第 3 会議室
5. 参加人数：計 21 人 (福岡県 7 名/佐賀県 3 名/熊本県 1 名/長崎県 1 名/大分県 4 名/鹿児島県 1 名  
宮崎県 1 名/沖縄県 3 名)
6. 活動内容の報告

#### (1) 活動の目的

今回の研修で、九州ブロックの会員の顔合わせを行い、交流を深め、今後の活動を活性化するための活動内容を検討することを目的とする。また、寺町先生に終末期における利用者家族の意思決定支援についてご講義頂き、認定看護師として実践・指導・相談の側面からどうアプローチすべきか学ぶ機会とする。そして、今、各県で活発に認定看護師として活動している 2 名の活動報告を聞き、認定看護師として感じている悩みや、今後どう活動すべきかを、グループワークにて意見交換する。認定更新を行った経験談を話してもらい、これから更新する認定看護師の参考となるようにする。

#### (2) 具体的な内容

##### 【交流会】

- ・各県の訪問看護認定看護師の活動報告

宮崎県・堤 育子氏 / 大分県・河野智美氏

グループワーク (訪問看護認定看護師として感じている悩み・どう活動すべきか)

- ・認定更新を行った経験談 鹿児島県・川崎幸栄子氏

##### 【研修会】

「終末期における利用者家族の意思決定支援 ～認定看護師の実践・指導・相談とは～」

大分大学医学部看護学科 (成人看護学) 教授 寺町芳子先生

#### (3) 活動の効果

今回、沖縄県や長崎県といった、今まで参加がなかった県からも参加があり、九州全県の訪問看護認定看護師との交流があったことが大きな成果と言える。それぞれに地域性があり、活動するにあたってどのようなことに悩み、どのような工夫をして前向きに活動しているのかを共有することができた。各県で各々に活動するだけでなく、九州全域の訪問看護師の質の向上を意識して、皆で士気を高めあって訪問看護認定看護師として、また頑張ろう！という団結力につながった。

また、研修会を開催することで非会員への広報もでき、加入希望者が3名あったため、今後もこのような活動を強化していくことが必要であると感じた。寺町先生の講演は、終末期における利用者・家族の意思決定支援を行う際に、認定看護師としてどう関わっていくべきか、また、訪問看護師へどうアプローチすべきかを知ることができた。今回の参加者の中で、認定更新をまだ行ったことがない者が半数はいたため、認定更新を行った経験談は、大きな一助となった。



## 認定看護師としての活動において悩みや課題、今後の活動の方針について

### 1G (堤・河野・橋本・道畑)

#### 現 状

- ・大分県の認定の活動はしているが、自施設での自分の役割が果たしているか不安
- ・ACP、医師との協働のタイプが二通りあり、投げられることを医師から任されるが、家族や対象者にとって、これでいいのか不安
- ・医師から訪問看護師に期待されていることもわかるが、利用者は医師の言うことが1番と思っている。実践していないので負い目があるが、それぞれの役割があるので今の道でいいと思っている。

#### できていないこと・したいこと

- ・県内のネットワークができていない
- ・心臓疾患など非癌の人たちへの訪問のために、病院の看護師たちと連携を取りたい。

#### 阻むもの

- ・分野の壁
- ・顔が見えない
- ・職務に追われて時間が作れないことがある

#### 訪問看護認定看護師の強み

- ・もう人の移動で始まった訪問看護だったが、今は楽しい。勉強する機会が増えた。
- ・ネットワーク、視野が広がった。ケアに対し自信になっている。
- ・野生の勘に知識もプラスされた。

#### 今後の活動

- ①堤は
- ②河野は
- ③橋本は
- ④道畑は

#### い つ

- ①2018年
- ②2018年2月
- ③2017年11月中旬に
- ④2018年

#### 内 容

- ①独協看取りの看護研究をします
- ②籠結果看護研究発表をします
- ③ステーションスタッフに今日の講義を受けて、伝達講習をします。ステーションスタッフにも意見を言える場をつくります。

④研究発表、ACP の地域ケアの取り組み、実態調査、ケアマネ、他職種との連携をはかります。

## 2G（田中、梶原、山崎、金城、馬場）

### 現 状

大分：特定行為研修を修了し、ぜひ訪問看護認定看護師に行っていきたい。

熊本：地震からの復興中。以前より前向きになってきた。仮設住宅への訪問もあり。

福岡：管理者が緩和ケアの認定看護師で、看取りが多い。療養ナーシングデイ

沖縄：定年退職後病院の入退院支援室。病院と在宅との連携、認定として病院での立ち位置に悩んでいる。

佐賀：看多機・療養通所、他職種との協働の大変さ

### できていないこと、したいこと

・機能強化型ステーション（4カ所のステーションを合併）

20名の看取りをクリアできるが、市内全域をカバーするのは難しい。さてサテライトで気に入った方が働きやすい→記録等の問題

・講師依頼も少ない

・制度活用が難しい（看多機立ち上げを断念した→日はできていた）

・地域包括ケアの実践→地域サロン

・訪問看護入門講座プログラム→日本看護協会ホームページにアップしている。

### 阻むもの

・ステーションの給料が低く、人が集まらない。

・訪問看護認定看護師の強み

・訪問看護師 4万人→2020年 10万人目標

### 私は、私たちは

沖縄県で認定看護師研究会を立ち上げる

### い つ

今年度中

## 3G（岩川、宮城、伊藤、堀口）

### 現 状

・地域連携室から同行訪問に来ているが、数日では在宅の現場がわからない。

・病院主催の地域住民との交流会が年に4回開催されている。スタッフと住民含め約200名の参加がある。ほぼクレーンだが、訪問看護の紹介や、公民館に行って講師として在宅を紹介している。

・病院ナースの在宅への理解がない。他の認定看護師との感覚の違いを感じる（感染CN）。

・沖縄県は、日本一胃瘻の造設が多い。沖縄の腐臭で命は宝と言われており、胃瘻の造設に賛否がある。また、有料老人ホームが多くそこでの看取りが増えている。

・認定看護師になり、講師の依頼が増えている。

#### できていないこと、したいこと

- ・施設看取りや感染防止などスタッフの質の向上を図りたい
- ・病院のナース回在宅医療への理解や認知度を上げたい。
- ・ACP
- ・病院との人材交流

#### 阻むもの

- ・管理業務と認定看護師の活動の両立ができない
- ・人材がこない
- ・人が育たない

#### 訪問看護認定看護師の強み

知識や研修会への参加が増えた。

#### 4G（二宮、下地、田頭、川崎）

##### 現 状

- ・沖縄ではターミナルの利用者が当日なくなることが多く、報酬が取れない。また、ギリギリで帰ってくる。
- ・精神科の利用者が増えている→トラブルが多い

#### できていないこと、したいこと

- ・後輩が育たない。人が来ない。新卒を採用するが、やめてしまう。  
→ライフワークバランス(働く形を変えていける職場)働きやすい職場を目指す。
- ・連携室に訪問看護認定看護師がいるとスムーズに在宅に移行できる。
- ・ターミナルの利用者が良い時期を在宅で過ごすことができるようにしていきたい  
→もう少し早い時期に退院して在宅生活ができれば…。

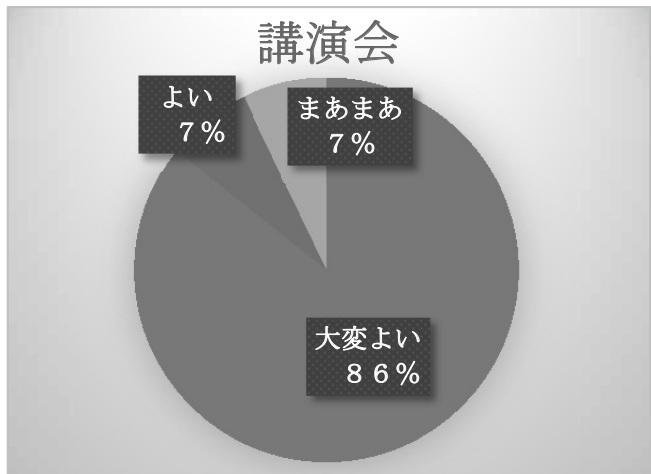
#### 阻むもの

- ・ターミナル利用者が早い時期に在宅生活ができればいいが、病院のナース、医師の見極めができていない。
- ・精神科の利用者→在宅に帰る体制を整えずに退院させるので、トラブルが増えている。

1. 午前の部

問1：本日の講演会はいかがでしたか？

|      | 人数 | %   |
|------|----|-----|
| 大変良い | 12 | 86  |
| よい   | 1  | 7   |
| まあまあ | 1  | 7   |
| 不十分  | 0  | 0   |
| 合計   | 14 | 100 |



(理由)

- ・認定ナースとしての動きについて、具体的な教えをいただいた。
- ・認定として活動する中で、実践が大事であること、本家のある看護実践で示すことが指導、相談にも生きてくることを再認識できました。意識化して意図的に関わることを実践していきたいと思えます。
- ・もう少し時間に余裕があればゆっくり聞けたのではないかと思います。
- ・認定看護師ならではの意思決定支援ができるよう努めていきたいと感じました。
- ・アドバンスケアプランニング、意思決定支援など濃厚な講義の中身でした。
- ・意思決定支援において、大切なことがより明確になりました。
- ・今後、認定看護師としての活動に役立つ内容だったこと、講師の話し方がパワフルでわかりやすい内容だった。
- ・アドバンスケアプランニングを行う理由、意志決定支援の概念、意思決定のプロセスなどすぐ現場に生かせる内容で良かったと思う。
- ・寺町先生の講演は初めてでした。とてもわかりやすく、興味ある内容でした。日々の実践に生かせる。
- ・意思決定支援のためのコミュニケーションは、繰り返し行い、利用者さんやご家族と信頼関係を作ることが大事だと思いました。

問2：本日の講演会で印象に残ったことをお書きください

- ・後輩への意図的な関わり、エビデンスに基づいた指導
- ・こここのところ、ずっと意志決定の話（研修会）が続いていて、多職種で話し合うことも多くとてもうなずけるところがたくさんありました。「ブレないエビデンス」「尊厳ある生き方」好きなキーワードでした。
- ・アドバンスケアプランニングについて、今までの研修以上に深く学ぶことができました。
- ・自分の聞きたいと思うことが、講義の中にたくさんありました。
- ・疾患別終末期の特徴を知り、意図的に関わる。
- ・エンドオブライフについて、CNとしての役割の再認識

- ・水準の高い看護実践すること エンドオブライフケア ACP
- ・看護師自身の悲嘆のケア
- ・自分自身を知る(自立した大人になる)  
→スタッフを育てていく上で大事なことである。できていなかったなあと反省しました。
- ・アドバンスケアプランニング

ACP は癌、非癌、訪問看護開始から始めなければならない。エビデンス、ガイドラインを基にする。

- ・感情の表出に引きずられずに、なぜ揺れるのかと考えることができれば良いと思いました。
- ・グループワークでの皆さんの活動

### 問3. その他ご意見ご感想をご自由にご記入ください

- ・寺町先生、シリーズで話を聞きたいと思いました。
- ・やはり福岡での回は、交通の便が良くて助かります。
- ・もう一度、寺町先生の講演を受講したい。仲間がたくさんいると再認識しました。明日からまた実践の場ががんばります。

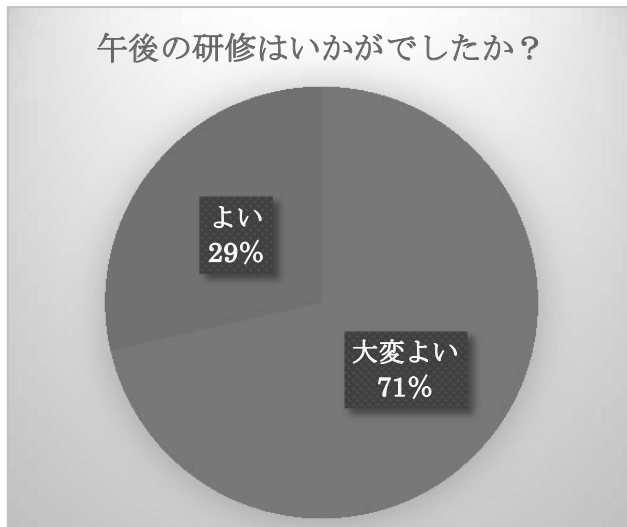




2. 午後の部

問1：午後の研修はいかがでしたか？

|      | 人数 | %   |
|------|----|-----|
| 大変良い | 10 | 71  |
| よい   | 4  | 29  |
| まあまあ | 0  | 0   |
| 不十分  | 0  | 0   |
| 合計   | 14 | 100 |



(理由)

- ・多くの情報を得ることができ、今後の活動のヒントを得ることができました。
- ・いろんな話が聞けてよかった。
- ・自分以外の方の活動が聞けた。
- ・各地方の方と顔の見える関係ができたこと。悩みや苦勞を分かち合えたこと。
- ・各事業所の活動が聞けてよかった。
- ・うらやましいと思います。大分は認定の方が多いので組織的な活動ができると思いました。
- ・他県の活動を知る機会となった。
- ・いろんな方々の話を聞いて改めて考えさせられました。認定 **Ns** として何か形にしなければと考えています。良い経験になりました。
- ・認定としての他分野の仲間と話す事はあるが、同じ認定分野での情報交換の場が少ないので、とても楽しい時間を過ごしました。
- ・積極的な活動が聞けて、自分の今後の活動について考えることができた。・わかりやすく参考になった、理解できました。

問2：午後の研修会で印象に残ったことをお書きください

- ・皆様の活動が伝わりました。意思決定支援の方法、意味、とても理解できました。
- ・今後の活動の行動目標を作ったこと
- ・別の県等の活動報告を聞いて、参考になりました。
- ・グループワークが必要だと思いました。各間の悩み、取り組み、特定医療行為の話など聞くことができました。
- ・様々な方が悩んでいるのがよくわかりました。私も悩んでいる事はたくさんありますが、勇気づけられました。
- ・地域とのネットワークづくりの必要性を感じた。
- ・意欲的に取り組まれていることが多かった。
- ・それぞれの間で抱えている問題が様々あるけど、九州内の認定看護師でつながりを持って頑張りま

しょう、という堤さんの言葉を、とてもとても力強いものを感じました。

問3. 本日の講演は何で知りましたか（複数回答可）

全員案内のチラシで知った

問4. その他ご意見ご感想をご自由にご記入ください

- ・明日からがんばります。ブロック会のポイント制は、ぜひお願いしたいです。
- ・年々研修内容や交流が深まっているように感じます。継続が力になっていくなと思いますので、協力していきたいです。